

英語で学ぶ臨床推論 (Clinical Reasoning in English)

【責任者/担当者】

〔臨床疫学〕森本 剛 教授

〔兵庫医科大学〕石戸 聡 教務部長、廣田 誠一 国際交流センター長

【担当者】

〔兵庫医科大学〕Louis N Pangaro 客員教授

〔英語〕作間 未織 講師

〔臨床疫学〕武内 治郎 助教

【目的】

- ・臨床推論の考え方を理解する。
- ・臨床症例を英語で扱う。
- ・英語での議論を体験する。

【科目キーワード】

「臨床推論(Clinical reasoning)」「症例提示(Case presentation)」「鑑別診断(Differential diagnosis)」「症例サマリー(Case representation)」「英語(English)」

【到達目標(アウトカム)】

- よくある症状について、鑑別診断を列挙できる。
- 患者の病歴と身体所見から適切な疾患(群)を推定できる。
- 英文で書かれた症例を解釈できる。
- 症例の要約を英語で記載できる。
- 英語を用いてカンファレンスを行うことができる。
- 英語で症例を提示できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域ならびに母校への帰属意識を有している。

- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

授業は全て英語で行われ、ディスカッション、プレゼンテーション形式が主体となる。学生は能動的に授業に参加し、積極的な発言が求められる。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

- ・初回の授業で指定された症例について、各グループの発表日までに、症例の要約、鑑別診断、診断の根拠を英語の PowerPoint で作成すること(10 時間程度)。
- ・毎回、診断学や内科学の教科書を持参すること。
- ・授業前に当日の症例について、英文 1-2 センテンスで要約を作成してくること(1 時間程度)。

【成績の評価方法・基準】

授業参加態度(50%)

通常の真摯な参加態度を 30%に設定し、積極的な授業参加には加点を行い、遅刻、早退、中抜け、不真面目な授業態度(例、漫画やゲーム、通信)などには減点を行う。

グループケースプレゼンテーション(20%)

各グループが担当した症例発表について毎回採点を行う。グループ構成員は、全員同じグループ点となる。

英文ケースレポート(30%)

US style case presentation の授業の終了時に、英文ケースレポート(A4 1 ページ手書き)を提出する。

上記を総合して 100%として、65%以上を合格とする。

【学生への助言】

最初は英語が聞き取れなくても、毎回、ケースの予習を行い、教員の身振り、板書を見ていれば、必ず聞き取れるようになります。あきらめずに、授業についてきてください。

【フィードバック方針】

学生からの求めに応じて、個別に解説を行う。

【オフィスアワー】

オフィスアワーを以下の予定で設ける。

授業に関連する質問、発展的な内容については、積極的に利用すること。

森本 剛 教授

曜日・時間帯:アポイント

場所:臨床疫学研究室[2号館 4階]

Louis N. Pangaro 特別招聘教授

曜日・時間帯:第1回目の授業で案内

場所:特別招聘教授室[教育研究棟 5階]

作間 未織 講師

曜日・時間帯:アポイント

場所:英語講師室[教育研究棟 5階]

武内 治郎 助教

曜日・時間帯:アポイント

場所:臨床疫学教員室[2号館 4階]

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

「Bates' Guide to Physical Examination & History Taking (13th ed)」

Lynn Bickley、他 著(Wolters Kluwer)2020年

「The Patient History: An Evidence-Based Approach to Differential Diagnosis(2nd ed)」

Mark C Henderson、Lawrence M Tierney Jr. 著(McGraw-Hill)2012年

「診察エッセンシャルズ(新訂第3版)」酒見英太 編(日経BP)2020年

英和・和英辞書(種類は問わない)

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【連絡先】

2号館 4階 臨床疫学 教員室 (連絡先:0798-45-6487)